

「第15 回地域経済の将来を考える研究会」のご案内

AI(人工知能) 問題を考える

—友寄・北村論争によせて—

報告者:梅原浩次郎さん 愛知大学中産研研究員・博士(経済学)

永井 和彦さん 東海自治体問題研究所事務局

◆東海地域は、政府や経団連の提唱する「第4次産業革命」が急速に進展しつつある地域です。自動車産業や自治体職場を中心にAI(人工知能)やIoT(モノのインターネット化)の導入が本格化しています。これらの背景や実態を出し合い、その可能性と影響の検討をすすめています。そのうえで、中小企業を中心とする地域経済の活性化と、地球環境に調和的な地域社会の構築を展望します。

ところで 2019年に友寄英隆著『AIと資本主義』(本の泉社)が出版されました。『経済』編集長を歴任された友寄氏は、「本書は、マルクス経済学の立場から、AIをどう見るか、『資本論』の視点から、AIなる“現代の妖怪”の実態に迫ってみようとしたものである」と記しています。これに対し慶應義塾大学名誉教授の北村洋基氏が、『経済』2020年1月号に寄稿して幾つかの論点に絞って考察を加えています。『経済』2月号では友寄氏が、北村論文に対する見解を載せています。いまAIやIoTなどのデジタル革命をどう考えたらよいのか、真剣な検討が求められています。

そこで友寄・北村論争を切り口にしてAI問題を考える機会にしたい、と研究会を設定しました。あわせて「Society 5.0時代の地方」とスマート自治体についても検討を加えたいと思います。皆様のご参加をお待ちします。

「第15 回地域経済の将来を考える研究会」

日時 2020年4月4日(土)13時30分～16時

報告 梅原浩次郎: AI(人工知能)問題を考える—友寄・北村論争によせて—

永井 和彦: 「Society 5.0時代の地方」とスマート自治体

会場 愛知中小企業家同友会 6階会議室 (事務局は2階)

(地下鉄「栄」駅2番出口より3分、「久屋大通」駅4A出口より徒歩2分)

名古屋市中区錦三丁目6-29 サウスハウス6階会議室 電話 052-971-2671



会場案内図 (左図)

サウスハウス 6F 会議室

連絡先: 東海自治体問題研究所

052-916-2540

運営委員: 池内、梅原、大木、

知崎、永井、長谷川